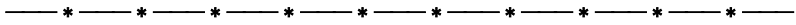
 Data	2022-102
監督・脚本: シルベスター・スタローン	
出演: シルベスター・スタローン / ドルフ・ランゲレン / タリア・シャイア / カール・ウェザース / プリジット・ニール / セン / パート・ヤング / ジェームズ・ブラウン / トニー・パートン / マイケル・パタキ / ロバート・ドーンニック / ストウ・ネイハン	

👁️👁️ みどころ

『ロッキー4 炎の友情』（85年）は、東西冷戦下のモスクワでのロッキーVSドラゴ対決がメインだったが、それはなぜ実現したの？国家の威信と個人の尊厳は、どちらがより大事？

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の関係は変えられないが、ロッキー、アポロ、ドラゴの関係は、編集によって如何ようにも！そんな視点で“あの試合”を見直してみると・・・？

映画なればこそそのそんな可能性にシルベスター・スタローンが挑戦！こりゃ面白い！“2世モノ”もいいが、再編集でもやっぱり“1世モノ”の方が！



■□■ “2世モノ” もいいが再編集でも “1世モノ” の方が！ ■□■

『ロッキー』シリーズは、『ロッキー』（76年）、『ロッキー2』（79年）、『ロッキー3』（82年）、『ロッキー4 炎の友情』（85年）、『ロッキー5 最後のドラマ』（90年）、『ロッキー・ザ・ファイナル』（06年）（『シネマ14』36頁）と6作も続いた。その後は、“2世モノ”として装いを新たに登場させた『クリード』シリーズが始まり、『クリード チャンプを継ぐ男』（15年）（『シネマ37』27頁）、『クリード 炎の宿敵』（18年）（『シネマ43』81頁）と2作続いた。しかして、今回登場した『ロッキーVSドラゴ：ROCKY IV』とは一体ナニ？

これは、コロナ禍で時間ができたシルベスター・スタローンが、シリーズ最大のヒット作になった『ロッキー4 炎の友情』を見直す中で、ロッキー、アポロ、ドラゴの戦いまでの道のりに焦点をあて物語を再構築したもの。つまり、映画の素材となる膨大なフィルムはすべて既存のものを使い、新たな編集作業によって、新たな物語を構築したわけだ。そんなことが可能な？一瞬、そう思ったが、映画ではそれが可能だ。織田信長、豊臣秀

吉、徳川家康の関係は変えられないが、ロッキー、アポロ、ドラゴの関係は、編集によって如何ようにも！そんな視点で“あの試合”を見直してみると・・・？

アポロの息子クリード、そしてロッキーの息子ロバート、さらにはイワン・ドラゴの息子であるヴィクター・ドラゴを登場させた“2世モノ”たる『クリード』シリーズも悪くはないが、再編集でも、やっぱり“1世モノ”（創業者モノ）の方が！

■□■ 35年という時代の変化は？東西冷戦は昔話に？ ■□■

今ドキは、“東西冷戦”という言葉自体を知らない学生もいるそうだが、それは大問題。1945年に終了した第2次世界大戦後の日本と世界の歴史は、今を生きる若者たちこそが、しっかり学ぶ必要がある。今年2月24日に勃発したウクライナ侵攻によって、ロシアは俄然、西側民主主義陣営の敵にされているが、東西冷戦の時代は今以上の敵だった。もともと、その時代、西側を代表するアメリカが、軍事面でも経済面でも常に優位に立っていたから一安心だったが、1962年のキューバ危機の際は、“核の使用”が現実問題に！

1985年に米国で公開された『ロッキー4 炎の友情』がシリーズ最大のヒット作になったのは、“ロッキーVSアポロ”という米国内での白人VS黒人対決以上に、ロッキーVSソ連のアマチュアチャンピオンであるドラゴとの対決に、米国民が“現実の東西冷戦”とはまた別の“東西対決”の姿を思い浮かべたためだ。つまり、決して東西冷戦は昔話になったわけではない。

ソ連邦は1985年に書記長に就任したゴルバチョフが、ペレストロイカ（改革）とグラスノスチ（情報公開）を進めたから、1980年代の東西冷戦は1950～60年代のそれとは大きく趣を異にしたが、それでも米ソの“東西冷戦”は継続中。そんな状況下、突如ボクシング界に進出してきたソ連の大型新人が、アマチュアながらロッキーの好敵手だった元世界ヘビー級チャンピオンのアポロに勝利してしまうと・・・。

■□■ ドラゴVSアポロ対決はなぜ？するとロッキー対決は？ ■□■

『キネマ旬報』9月上旬特別号は、「80年代の伝説『ロッキー4』。奇跡のカムバック！『ロッキーVSドラゴ：ROCKY IV』」と題して、シルベスター・スタローンのインタビューを掲載した。それを読むと、彼は『ロッキー4 炎の友情』でアポロの死を描いたことを、「ロッキーのすべての軌道が変わった」と認め、後悔していることがわかるが、それはなぜ？そんな彼が、今回の『ロッキーVSドラゴ：ROCKY IV』にかける思いは如何に？また、同誌には、①「スパーリングパートナーがいらないだと！」（三浦哲哉氏）、②「米ソ冷戦を映すエデュテインメントの決定版」（土佐有明氏）、③「ロッキーの闘いは魂のフーガだ」（南波克行氏）という3つの興味深い“レビュー”があるので、それにも注目！

本作は、すでに引退し、ロッキーとも仲良く裕福な暮らしを満喫しているアポロが、ドラゴとの対決を熱望するところからスタートする。なぜ、アポロはドラゴとの対戦を望んだの？そして、ロッキーはなぜそれをOKしたの？そんなロッキーは、アポロが負けた後、いかなる行動を？

『ロッキー4』でアポロが語ったキーワードは、「引退して時間が経っても、戦士としての自分を変えられない」というもの。ファイターとしてのアポロは、たとえエキシビジョンマッチであってもそれを貫き、死んでいったわけだ。すると、「ファイターとして生まれた自分を変えられない」のはロッキーもきつと同じ。①公式戦としては未公認、②ファイトマネーはゼロ、③敵地モスクワでの開催という悪条件が重なっても、また愛妻エイドリアンからいかに反対されても、ロッキーとしてはドラゴとの対決を避けるわけにいかなかったのは仕方ない。なるほど、なるほど。『ロッキー4 炎の友情』と『ロッキーVS ドラゴ: ROCKY IV』の微妙な違いに注視しながら、よくできた脚本に沿って進んでいく再編集された本作のストーリーをしっかりと楽しみたい。

■□■特訓風景は第1作を彷彿！最新科学VS原始特訓■□■

近時のスポーツ界では、最新の科学を取り入れたトレーニングが大流行。先日観たNHKの番組では、大谷翔平選手と佐々木朗希投手のフォークボールの回転数が他の投手のそれとは大きく違っていることを、スーパーコンピューター「富岳」を使って分析していた。なぜ大谷と佐々木のフォークは打者の手でストーンと鋭く落ちるの？それをここまで科学的に分析できるのは素晴らしいことだ。そう考えると、本作中盤に見る最新式の科学を取り入れたドラゴのトレーニングと、小さな小屋の中や雪の大地の中で一人孤独に続けるロッキーのトレーニングは大違い。その優劣は明らかだ。

もっとも、かつて『巨人の星』では、星飛雄馬が父親の指導の下、鉄製の下駄を履いてトレーニングをしていたが、それと同じように、本作中盤でロッキーが見せるさまざまな原始的トレーニングだって効果がないわけではない。ロッキー独特のトレーニングは第1作でたっぷり味わうことができたし、生卵を何個も割って一気飲みする体力作りにも納得することができた。その上、スパーリングパートナーがいらない今回のトレーニングでも、妻エイドリアンの思いがけない来訪があれば、鬼に金棒だ。もっとも、明確に数値で表示される大谷のフォークボールの回転数やバットスピードの速さは、米国球界でもトップクラスだが、数値で表示されるドラゴのパンチ力はもともと人間離れしたもの。それがロッキー対決に向けたトレーニングで、さらに強力になっていく姿を見ていると、いくらロッキーでも？そう思わざるを得なかったが・・・。

■□■結果は同じだが、勝利後のロッキーのメッセージは？■□■

1976年6月26日のアントニオ猪木 VS モハメド・アリの異種格闘技戦は、“世紀の大凡戦”になってしまったが、去る6月22日に実現した“RISE”の那須川天心と“K-1”の武尊の試合は迫力満点で面白かった。また、井上尚弥がノニト・ドネアに勝った6月7日のWBA・IBF・WBC世界バンタム級王座統一戦も面白かった。しかし、それに比べても、本作に見るロッキーVS ドラゴの対決は100倍も面白い！私が現実に見てきたヘビー級のタイトルマッチでは、まともにパンチが当たれば1発でノックアウト。しかし、本作はあくまで映画だから、ロッキーはドラゴのパンチで倒されても倒されてもなお起き

上がり、ファイトを続けていくから、本作ではそれを大いに楽しみたい。ちなみに、前述のレビューでは、「ロッキーが消力（シャオリー）を使っている！」との記述があるので、それにも注目。そこには、「パンチが当たるその直前に脱力し、顔を反対方向に思い切り振る。汗が飛び散り、激しい音もしているが、ダメージは見た目ほどではない。オーガニック訓練の目的は、ドラゴのパンチを散らす消力を可能にする、しなやかな体づくりのためだったのだ。」と書かれているが、その真偽は？

本作のクライマックスに向けての注目点は、当初はロッキーへのブーイングだらけだった観客が、ロッキーの奮闘ぶりを目の当たりにするにつれて、何と「ロッキー！ロッキー！」という声援が増えていくこと。それは『ロッキー4 炎の友情』も再編集にかかると同じだ。他方、新旧で両者が大きく異なるのは、ロッキーの勝利、つまりドラゴの敗戦を見届けた、ソ連の指導者が退場する際の態度。『ロッキー4 炎の友情』では、会場の歓声を受けて、彼が立ち上がって拍手していたのに対し、さて本作では？

さらに、最後の注目点は、ロッキーの試合終了後の観客へのスピーチ。第1作ではエイドリアンに向けて「愛してる！」と絶叫するシーンが感動を誘ったが、『ロッキー4 炎の友情』でも試合終了後のロッキーの会場のみならず全世界の人々に呼びかけるメッセージは大きな感動を呼んだ。しかして、本作ラストのロッキーのメッセージは如何に？それはあなた自身の目で、しっかりと。

2022（令和4）年8月30日記